

潜在患者 500 万人



# 便失禁の初期診療のコツ

角田明良 (亀田総合病院消化器外科部長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

1. 便失禁を取り巻く現状 ..... p2
2. 初期評価 ..... p4
3. 初期保存療法 ..... p18
4. 専門医紹介の基準 ..... p24

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

# 1. 便失禁を取り巻く現状

---

わが国における便失禁の有症率は、1992年に65歳以上を対象に行われた地域調査では男性8.7%・女性6.6%と報告されていた<sup>1)</sup>。現在では有症率の上昇が見込まれ、潜在患者は500万人いるとされている。高齢社会における一般診療で、便失禁の診療に関心が払われている中、わが国では2017年に『便失禁診療ガイドライン』が刊行された<sup>2)</sup>。ガイドラインでは、便失禁は「無意識または自分の意思に反して肛門から便がもれる症状」と定義されている。

便失禁の発症には、様々な原因・要因がある(表1)。しかし、適切なプライマリ・ケアで改善することが多い。便失禁の改善には初期診療が最も重要で、問診・重症度評価・視診・触診などで病態の概略を評価した上で、食事指導・排便習慣指導・薬物療法を行う。

**表1 便失禁の病態と原因**

病態	原因
特発性肛門括約筋不全	加齢による内外肛門括約筋機能および直腸感覚の低下
外傷性肛門括約筋不全	分娩外傷(第3・4度会陰裂傷)
	肛門手術(痔瘻, 裂肛)
	直腸癌手術(肛門括約筋間直腸切除術)
	肛門外傷(転落・交通事故など)
神経原性肛門括約筋不全	分娩後の陰部神経障害
	直腸癌に対する低位前方切除術による自律神経損傷
	糖尿病による自律神経障害
	脊髄障害(脊髄損傷, 二分脊椎, 髄膜瘤など)
先天性直腸肛門疾患	鎖肛術後
	Hirschsprung病術後など
後天性直腸肛門疾患	直腸脱
	直腸瘤
	直腸重積など
便意感覚異常	多発性硬化症
	認知症
	脳梗塞
	糖尿病など
直腸貯留能不全	直腸癌に対する低位前方切除術
	放射線照射
	炎症性腸疾患(クローン病など)
便通異常	過敏性腸症候群
	炎症性腸疾患
	胆嚢摘出後
	下剤服用後の下痢など
溢流性便失禁	糞便塞栓
	小児遺糞症など

(文献1より改変)

## 2. 初期評価

### (1) 問診

#### ポイント

- ✓ 便性のチェック
- ✓ 下剤服用のチェック
- ✓ 温水洗浄便座使用のチェック
- ✓ 異常分娩歴のチェック
- ✓ 手術歴・既往歴のチェック

患者は初診時に「私は、便失禁があります」と述べるわけではない。多くの患者は、自分の症状を便失禁とは思っていない。しかし、傾聴すると「下着は汚れないがパッドに便がつく」「排便後しばらくすると肛門に濡れた感じがあり、トイレへ行くと下着に便がついている」「急に排便したくなったが、トイレまで間に合わなくて、下着を汚した」などと、病状を説明する。これらはすべて便失禁の症状と言える。

患者は羞恥心にさいなまれながら一大決心をして受診するので、診察では言葉遣いや態度に配慮する必要がある。傾聴と共感が問診の基本で、患者の訴えに対して「そうですか。大変お困りですね」と返答する。問診は最も重要な初期評価である。

#### 1) 便失禁の発症時期・発症契機・タイミング

便失禁がいつから、どのようなきっかけで発症したか、また、どのようなときに便失禁するのかを聞く。加齢のためか、食生活を変えてからか、出産後からか、など。

#### 2) 便性

普段の便の性状をブリストル便性状スケールを用いて聞く<sup>3)</sup> (図1)。

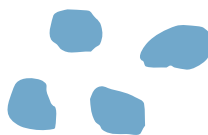






タイプ1		コロコロした便
タイプ2		ソーセージ状だが硬い便
タイプ3		表面にひび割れのあるソーセージ状の便
タイプ4		軟らかいソーセージ状の便
タイプ5		軟らかい半分固形状の便
タイプ6		泥状の便
タイプ7		水様の便

図1 ブリストル便性状スケール

### 3) 食生活

カフェイン，乳製品，アルコール，柑橘類などの過度の摂取は便性を軟化させるので，便失禁の要因になる。

### 4) 下剤服用の有無

下剤の常用は，軟便または下痢便を生じがちで，便失禁の要因になる。特に，刺激性下剤の常用で慢性的な下痢状態になる。また，下剤と認識しないで服用し，下痢のために便失禁をきたす場合も少なくないので，注意